

第3次丸亀市産業振興計画 構成・基本理念・方向性について

令和4年10月27日（木）14時～

丸亀市産業振興推進会議

目 次

- 1. 第3次丸亀市産業振興計画 構成案・・・・・・・・・・2
- 2. 基本理念について・・・・・・・・・・3
- 3. 丸亀市における産業振興の視点・考え方・・・・・・・・8

1. 第3次丸亀市産業振興計画 構成案

■第1章 策定の背景と目的

1. 背景と目的
2. 計画期間
3. 上位・関連計画との関係

■第2章 丸亀市産業の特徴と課題

1. 丸亀市における地域経済の特徴
2. 丸亀市における産業の主な課題
3. 事業所アンケート結果

■第3章 基本理念

■第4章 産業振興の基本的な考え方

1. 丸亀市における産業振興の視点
2. 産業振興の基本的な考え方

■第5章 施策の方向性

1. 農水産業
2. 工業・地場（伝統）産業
3. 商業・サービス業
4. 観光（産業）
5. 地域別の産業振興

■第6章 計画推進の仕組み

1. 丸亀市産業振興推進会議の役割
2. 庁内及び関係機関の連携
3. 進行管理の方法

※基本的には、現在の第2次計画を踏襲しつつ、この5年間における変化やふまえるべき視点をもとに作成

2. 基本理念について

▼視点

【視点①】
「人を育てる」

▼キーワード

担い手育成
地元就職

▼主なご意見

- ・ 「企業」を育てることも大事だが、何よりも「人」を育てることが大事だ。人を育てるという点でも、産業課だけではなく他の課との連携が必要になってくる。
- ・ 「人」を育てることはこれから重要な課題となってくる。一回、市外に出たとしても、また丸亀に戻ってきてもらうためには、やはり丸亀の魅力をメッセージとして残しておくことが必要だ。
- ・ 地元大学への進学や、地元企業へ就職していく子どもを増やしていけるような文章を盛り込むべきだ。

【視点②】
時代に即した
キーワードへの対応

SDGs
ゼロカーボン
デジタル対応 etc...

- ・ デジタル化に加えて持続可能性、SDGs、環境志向、カーボンニュートラルの視点は避けては通れない。
- ・ 今後の産業を考えていく上で、「デジタル化」は外せない言葉だ。
- ・ SDGsの全ての問題に取り組むのは中小零細企業にとっては厳しい。ただ、1つや2つは自社でも関わっている所があるので、少しばかりは気に留めるべきだ。
- ・ デジタル化や横のつながり、持続可能性、環境志向などの様々なキーワードが出てきた。未来が予測できない不確実な社会の中で、そういったキーワードを基本理念にしっかりと入れていくべきだ。

2. 基本理念について

▼視点

【視点③】
「地域の経済循環」

地域経済循環率の向上
中讃間地域連携
広域連携

▼キーワード

▼主なご意見

- 丸亀は丸亀単独では生き残るのは難しい状況であり、最低でも中讃地域でまとまる必要がある。これからは丸亀単独で生き残るのは難しい時代である。琴平や多度津など周辺からは金を稼いでいるが、高松や坂出にはキャッシュアウトする構造になっている。このままだと令和の大合併につながってしまう。
- 「ない袖」を振っても仕方ないのであれば、エリアを広げて大きな枠づくりを考えないといけない。例えば、中讃地区でまとまるようなイメージである。三豊市のようなアグレッシブな動きを参考にしてみよう。
- 5年後、10年後の丸亀市をどうしていきたいか、というあるべき姿をしっかりと考えないといけない。そこから逆算して何に取り組むかである。ただ、企業経営としてボランティアでなく、採算性も取れる事業を考えないといけない。それと同様に、丸亀市も行政活動も持続可能な視点を意識する必要がある。
- 丸亀だけでは経済規模を発揮できず、周辺市町村との連携も進んでいるが、産業政策の観点では連携はより重要になる。丸亀、坂出、多度津など個別自治体で対応していても限界があり、産業分野での連携は必要である。
- 特に、観光面ではこうした広域連携が必要になるだろう。具体的にどのエリアと連携するか、というのは明確に決めず、「来るもの拒まず」という視点が重要である。

2. 基本理念について

▼視点

**【視点④】
「企業の力を強化」**

**中小企業者等の力向上
100年企業の育成
伝統産業の役割**

▼キーワード

**【視点⑤】
丸亀の魅力を
再発信**

**丸亀に人を呼び込む
魅力を再発信**

▼主なご意見

- ・ 「100年企業」という言葉をもう少し単純に考えても良いのではないか。もっと産業ごとに強みと弱みを明確にして、各企業が力をつけていくことが求められる。
 - ・ 税収が増えることが子育てなどの福祉の向上にも繋がっていく。そういった点でも、やはり企業が力を付けていくためにはどうしたら良いか、単純なことだが深く考えていくべきだ。
 - ・ 地域での就職先として、若者に選んでもらえるように、中小企業者等も力を付けていく必要がある。
 - ・ デジタルを活用して伝統産業も生まれ変われる可能性がある。
-
- ・ 観光はコロナで止まっているが、今年の秋には3年ぶりに瀬戸内芸術祭が開催される。その来場者が丸亀にも寄ってもらうように、うどんや骨付き鶏などの「食」をアピールしていけたら良い。
 - ・ 商店街は空き家ばかりになっているので、そこを瀬戸内芸術祭のイベント期間中だけでも一時的にお店を出して人を呼び込み、そして丸亀城にも寄ってもらうような流れを作ることが大事だ。
 - ・ 人に来てもらうためには「おもてなし」が最も重要。いつまでもコロナと言っているのではなく、何かアクションをしていくべきだ。
 - ・ 丸亀市はお城、川、山など、良いものが多いのに、なぜ上手く活用できていないのかと思う。

基本理念 文案

▼第2次計画

【第1段落】

本市産業のほとんどが中小企業で占められており、地域産業の振興にあたっては、創意工夫を凝らし、技術を磨く自立した中小企業の存在と成長が不可欠です。そのためには、自らが経営を革新し、新製品やサービスを積極的に生み出す、挑戦する中小企業を積極的に支援する必要があります。さらに、単独による活動だけでなく、連携や協働、地域資源の活用による活動を促進させることが求められます。

【第2段落】

中小企業のうち、特に、地域に密着した農水産業や地場産業は、経済活動の主役に留まらず、伝統技能や文化の継承に重要な役割を果たしています。中小企業が地域社会と住民生活に貢献するためには、これまで以上に、地域住民との結びつきを強める必要があります。例えば、農水産業における体験学習、地場産業における丸亀うちわの製作体験等、特に幼少期から関わりを深める取組みを行い、中小企業への理解と地域への愛着を深める機会をつくる必要があります。

【第3段落】

また、少子高齢化・人口減少社会の中、地域社会の発展のためには、定住人口の維持・増加が必要です。産業振興を図り、中小企業による雇用創出、地域住民への商品・サービス等の提供という社会的役割を果たし、住みやすいまちを目指す中、本市は、近隣市町（善通寺市・琴平町・多度津町・まんのう町）と連携し、定住自立圏構想を推進しています。

▼第3次計画（今回）

【新設】

近年の本市を取り巻く状況を見ると、気候変動や紛争、貿易摩擦等により「不確実性」が増大するとともに、エネルギー価格の高騰や食料自給率の低さ、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化など様々な課題に直面しています。本市産業もグローバル経済や環境変化を大きく受ける時代になっており、先を見据えた産業政策がますます重要性を帯びています。

本市産業のほとんどが中小企業者等で占められており、地域産業の振興にあたっては、創意工夫を凝らし、技術を磨く自立した中小企業者等の存在と成長が不可欠です。そのためには、自らが経営を革新し、新製品やサービスを積極的に生み出す、挑戦する中小企業者等を積極的に支援する必要があります。既存の収益を維持・発展させながら、SDGsやデジタル化への対応、環境経営といった次世代型の経営テーマにも積極的に取り組む必要があります。さらに、単独による活動だけでなく、広域での連携や協働、地域資源の活用による活動を促進させることが求められます。

中小企業者等のうち、特に、農水産業は地域に密着した分野でもあるとともに、地域はもとより国全体の発展においても基幹的な産業です。また、地場産業は、経済活動の主役に留まらず、伝統技能や文化の継承に重要な役割を果たしています。中小企業者等が地域社会と住民生活に貢献するためには、これまで以上に、地域住民との結びつきを強める必要があります。例えば、農水産業における体験学習、地場産業における丸亀うちわの製作体験等、特に幼少期から関わりを深める取組みを行い、小中学校などの若い世代から農水産業や地場産業に触れる機会を作ることで、中小企業者等への理解と地域への愛着を深める必要があります。

また、少子高齢化・人口減少少子化対策が求められる社会状況の中、地域社会の発展のためには、定住人口の維持・増加が必要です。産業振興を図り、中小企業者等による雇用創出、地域住民への商品・サービス等の提供という社会的役割を果たし、住みやすいまちを目指す中、本市は、近隣市町（善通寺市・琴平町・多度津町・まんのう町）と連携し、定住自立圏構想を推進しています。こうした広域での連携も含めて、地域経済全体の成長と好循環につなげてまいります。

基本理念 文案

▼第2次計画

【第4段落】

このように、社会の主役である中小企業は、本市産業のみならず、地域振興においてもきわめて重要な位置付けにあります。しかし、中小企業の多くは、人材や資金等の経営資源が不足しており、地域産業振興をその自助努力のみで担うには限界があります。関係機関や本市等が連携し、中小企業を支援することが求められています。本市では、国・県等が行う中小企業支援施策を、中小企業が有効に活用することを支援するとともに、地域の特性や課題に適合した中小企業の振興を行うために、本市独自の産業振興策を講じたいと考えます。

【第5段落】

上記を踏まえ、本市の地域性や伝統を大切にするとともに、時代に柔軟に対応し、革新に挑戦する企業を多数輩出することを目指します。また、すでに老舗の企業も、あるいは創業したばかりの企業も、農水産業者や個人事業者も、本市で持続的に発展していく「企業」として、「未来の100年企業」と名付け、本計画の基本理念を次のとおり定めます。

▼第3次計画（今回）

このように、社会の主役である中小企業者等は、本市産業のみならず、地域振興においてもきわめて重要な位置付けにあります。しかし、中小企業者等の多くは、人材や資金等の経営資源が不足しており、地域産業振興をその自助努力のみで担うには限界があります。特に、近年はあらゆる産業で人材不足が深刻化しており、産業活力の源泉である人材に着目した施策の重要性が高まっています。関係機関や本市等が連携し、中小企業を支援することが求められています。本市では、国・県等が行う中小企業者等の支援施策を、中小企業者等が有効に活用することを支援するとともに、地域の特性や課題に適合した中小企業者等の振興を行うために、本市独自の産業振興策を講じたいと考えます。

上記を踏まえ、本市の地域性や伝統を大切にするとともに、不確実性の増す時代に柔軟に対応し、革新に挑戦する企業を多数輩出することを目指します。また、すでに老舗の企業も、あるいは創業したばかりの企業も、農水産業者や個人事業者も、本市で持続的に発展していく「企業」として、「未来の100年企業」と名付け、本計画の基本理念を次のとおり定めます。

【基本理念】 「未来の100年企業」を育むまち・丸亀

変更なし

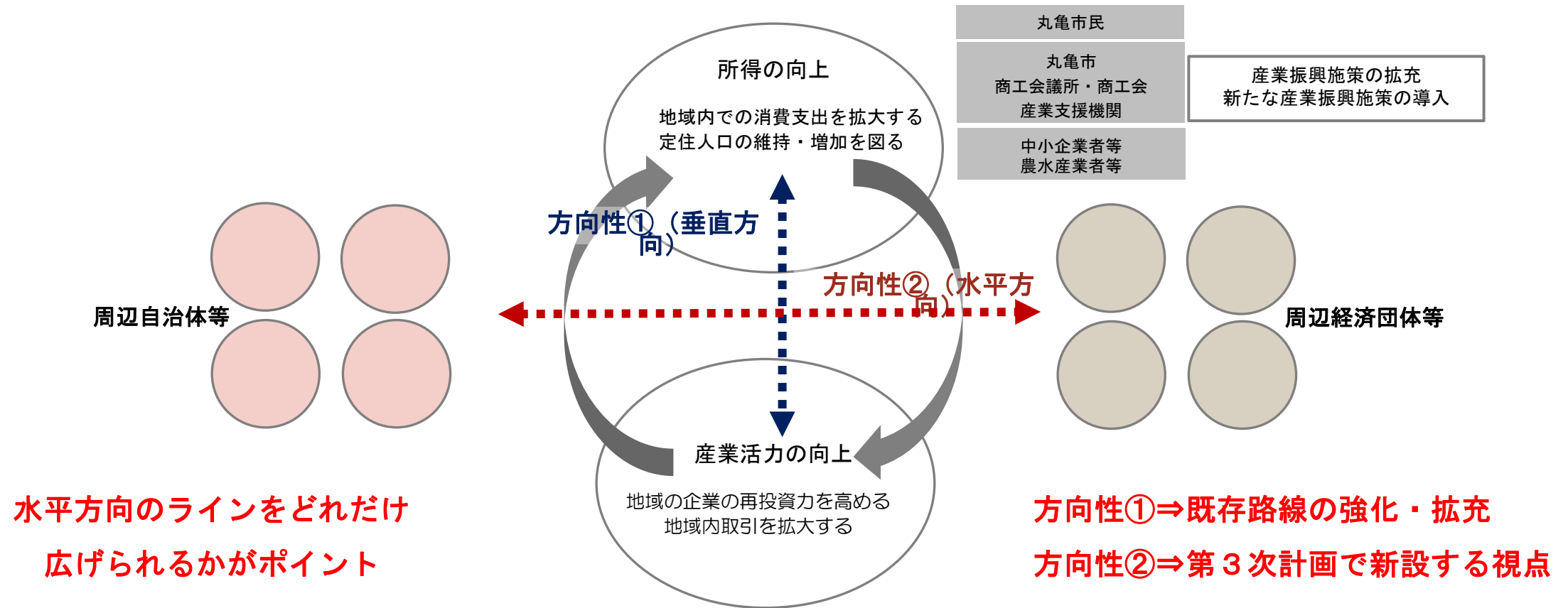
3. 丸亀市における産業振興の視点・考え方

【丸亀市における産業振興の視点】

- 2つの方向性で今後の産業振興を考える必要性

方向性①（垂直方向）：市内企業や産業支援機関、金融機関、行政等の結びつき強化による地域経済の「刺激」

方向性②（水平方向）：周辺自治体や経済団体等とも広域で連携しながら「経済圏」を拡大



3. 丸亀市における産業振興の視点・考え方

【6つの基本的な考え方】丸亀市における産業振興の視点をふまえて、6つの基本的な考え方を設定

1. 産業人材の育成

- ・あらゆる産業で不足する人材確保への支援、人材こそが産業活力の源泉
- ・産業教育など若い世代から地元産業に触れる機会の創出 等
- ★施策例) 人材確保・マッチング、合同就職説明会、事業承継支援、産業教育の拡充等

2. 収益基盤の確保による既存事業者支援

- ・100年企業を育むためには、既存事業者支援は不可欠
- ・従来までの事業者支援を継続、拡充しながら収益基盤の確保を支援

3. 産業の高度化・高付加価値・次世代経営支援

- ・デジタル対応などあらゆる産業での高度化・高付加価値化を推進
- ・SDGsや環境経営など次世代型経営への対応支援を実施
- ★施策例) デジタル化対応支援、六次産業化・ブランディング支援、設備更新等

4. 丸亀ブランドの確立とPR強化

- ・丸亀市の多様な資源を活用した知名度とブランド力の強化
- ・丸亀への産業イメージ、観光資源（特に島しょ部）のブラッシュアップ

6. 産業分野別・地域別のアプローチ

- ・多様な産業が島しょ部から内陸部に立地するのが丸亀の特徴
- ・経済循環の促進のためにも、産業別・地域別の政策検討が有効

5. 経済の好循環を創出する事業者支援

- ・新たな経済循環を生み出すことを意識した各種施策展開（新旧）
- ・中讃地域など広域連携も意識した施策展開

産業振興の視点
「垂直」×「水平」を
ふまえた展開